

6月15日(木)、尾張板金連合会主催の積水化学工業 栗東工場見学研修会が40名の参加者で開催された。

午前7時40分、名古屋駅西口から貸切バスに乗り込み出発。車内で尾張板金連合会大山会長が参加者にお礼と秋に開催されるボウリング大会への参加を呼びかけた。続いて今回の工場見学に協力を頂いた株式会社メトリーカケフの丹羽係長にも挨拶頂いた。バスは名駅入り口から名古屋高速、名神高速を走り途中休憩を取りながら午前10時45分頃、滋賀県の栗東工場に到着。多目的ホールに案内されモニターで製品や工場内の説明を受けた。

その後、二班に分かれヘルメットと軍手、イヤホン

尾張板金連合会 第5回工場見学研修会



愛知県板金工業組合
発行 広報委員会
名古屋市中区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226



▲ 担当者の説明を聞く参加者

が各自に手渡され施設内を見学した。我々の班は展示ホールに移動して実際の製品説明を聞いた。

ここでは、塩ビ管、オレフィン、継手、更生管、FRP管、FRP、防音材料の製品を生産している。我々に関連するのは塩ビ管位だがよく使うエスロンパイプの他、水道用や耐火用ジャバラ状のプラスチッククリップパイプなど塩ビ管



▲ 参加者 (多目的ホール前)

だけで7種類ある。その他オレフィンとは空調や給水給湯に使用する管で、更生管とは既設の大きな下水管や排水管の内側をやわらかい材料で補強するもの、FRP管は大口径で最大直径が26mになる。FRPは鉄道の線路の枕木など軽くて強度が求められる物に使われている。展示ホールを出て芝生の敷地に移動し、地中に埋設された災害時等に使用する仮設トイレ用の排水設備の説明を聞いた。その後、実際の生産工場内に入りパイプ等の製造ラインなどを見学した後、多目的ホールに戻り質疑応答が行われ、係員にいろいろ熱心に尋

午後零時30分多数の工場関係者に見送られ昼食会場の天津市石山寺門前「淡味の膳処 洗心寮」に向け出発。ここまでアルコールはなしたかったので到着後、皆一者にビールを飲み出した。昼食を終えた方から各自、自由散策をして長浜の黒壁スクエアに午後3時過ぎに到着し1時間ほど自由散策。ガラス細工店などを見学し私は海洋堂のフィギュアミュージアムで夢中になって商品が物色した。

午後4時10分すべての工程を終え午後6時前、無事名古屋駅に到着後、解散して各自帰路について。猪飼(津島支部)

ねていた。

午後零時30分多数の工場関係者に見送られ昼食会場の天津市石山寺門前「淡味の膳処 洗心寮」に向け出発。ここまでアルコールはなしたかったので到着後、皆一者にビールを飲み出した。昼食を終えた方から各自、自由散策をして長浜の黒壁スクエアに午後3時過ぎに到着し1時間ほど自由散策。ガラス細工店などを見学し私は海洋堂のフィギュアミュージアムで夢中になって商品が物色した。



▲ 石山寺での昼食風景

「みつまた」が原料であることくらいは知っていたが、皮だけを使う事を知り目から鱗であった。

この後一行は老舗料理旅館「緑風荘」へ移動し

平成29年6月16日(金)毎年恒例の合同学習が催行された。

本年の見学先は岐阜県美濃市の「美濃和紙の里会館」と「うだつの上がる町並み」。名古屋からは板金技能専門学校20名、菓子技術専門学校、中部日本プラスチック職業訓練校、瓦高等職業訓練校、左官高等職業訓練校から25名、豊橋高等技術専門学校からは32名、岡崎技術工学院から19名が各々の地区からバスで出発した。午前10時頃最初の見学地、美濃和紙の里会館で合流、映像と展示物で和紙製造工程を見学、希望者は和紙の手すき体験をした。和紙といえど「こうぞ」「みつまた」が原料であることくらいは知っていたが、皮だけを使う事を知り目から鱗であった。



▶ 参加メンバー

昼食をとった。午後からは6グループに分かれ地元ボランティアさんの案内でうだつの上がる町並みを歩いて周った。うだつとは屋根の両端を一段高くし火災の類焼を防ぐ防火壁状の物で時代の変遷とともに富の象徴となり豪華さを競ったようだった。

午後3時帰路につき、我々名古屋グループは午後4時少し前、名古屋駅に到着し解散となった。

浅井(中支部)

愛知県職業能力開発協会 訓練生合同学習

青年部有志 カンボジア板金指導支援事業

6月6日(火)から12日(月)の行程で昨年に続き「カンボジア板金指導支援事業」へ行ってきた。

小野寺理事長を筆頭に、望月克治(事務局長) 阿知和司(団長) 伊藤哲章(会計・板金指導) 原田裕治(広報写真担当) 成瀬菜月(板金指導) 柳原大貴(板金指導) 蟹江康(愛知県板) 木村一夫(全板連青年部副部長) 岩本重人(中板協青年部部長) 今井哲也(岐阜県板金青年部相談役)の11名が全国から集結した。

6月9日(金)昼過ぎ、今回事業のメインの場所であり前回も訪れた「夢ホーム」へ到着した。前回のメンバーを覚えていてくれたようで子供達が笑顔で出迎えてくれた。

夢ホームは恵まれない子供達が集団生活している施設で、故鈴木千雄氏が寄贈した板金教室の校舎がある。同行したり

カバリーサポートあいちのメンバーは夕飯のカレーライス作り、我々板金有志組は子供達に板金指導を行うため板金教室に入った。昨年の板金指導以降、教室が使われていない様子で、作業台の上には鈴木氏の写真が飾ってあった。砂ぼこりと湿度で作業台の針葉樹合板が所々腐っていたが準備に取り掛かった。

今回の指導は文房具が入る「箱」の作成だ。8名の子供が集まり、上は15歳の女の子から下は7歳の男の子まで。日本で型取りしてきた亜鉛鉄板を子供達に配り、各工程で岩本部長が手本を示し、その後生徒達が作業するようにした。今回は板金業者が11人もいるのでマンツーマンで教えることができたが言葉が通じないので身振り手振りで教えるしか無い。皆、熱が入ってくると言葉が通じ

ないのも忘れて熱心に指導していた。その頃、小野寺理事長と蟹江氏はあまりにもじめな作業台を直そうと材料屋を探し当て、針葉樹合板・ビス・丸ノコなどを買い出し、合板にシロアリ除けの薬品を塗るなど急ピッチで準備をしていた。箱の制作も終わり、続けて作業台の解体から始め、日本から持ってきたインパクトドライバでビスを抜き、ボロボロの合板をみんなの外に運んで生徒と共に大量の汗をかきながら作業を行った。カンボジアは亜熱帯地域で湿度も高くかなりの重労働だったが、そこは一流の板金職人の



集まりで、あつという間に作業台が生れ変わり、生徒達も楽しそうに手伝ってくれたのがとても印象的だった。その頃にはカレーライスも完成し夢ホームの生徒と先生方と一緒においしくいただいた。夕食後には協賛金で購入した歯ブラシ・文房具とリサイクル衣類を寄贈した。あつという間に別れの時間となり、たくさんの子供達の笑顔を見ていると今回の事業もまた大成功であったことを強く実感できたカンボジア支援事業であった。

原田(岡崎支部)

全板連ルーフィングを 使用しましょう

ルーフィングを注文の際は是非「全板連ルーフィング」と指定して注文して下さい。



編集後記

先日、悲しい葬儀に参列しました。高校時代の同級生。お互い新に残り、家業を継いだ事もあり、何だかんだですつと付き合ってきた。昨年、胃がんを患い手術を受け、元気に仕事に復帰していたんですが、今年春頃から体調を崩して豊橋の病院に入院していました。亡くなる10日程前にお見舞に行っただんですが、「松浦もちゃんと健康診断やらんと俺みたいになるぞ！」と彼の一言。「お前も弱気な事言つてないで早く新城に帰つてこいよ」と、元気な頃の面影もなく、やせ細りベッドに横たわって



▲ 岡崎技術工学院総会にて、理事長を8年務められた久世明男さん(岡崎支部)が退任され、感謝状が贈られた

いる友人にこう言うのが精一杯でした。私達自営業だと、人間ドックの様なちゃんとした健康診断をやらなくても誰からもお咎めは受けません。現に私も家内も結婚以来やってません。こんな事があり今年には是非人間ドックを受けようと思いません。

「健康に勝るものはなし！」皆様もお身体にはくれぐれもご自愛下さい。 M

六月二十九日(木)
五三八号 編集会議
広報委員 五名
後藤副理事長 出席
午後二時半開会
五時閉会